

2021年 年頭のごあいさつ

新しい年を迎えられるにあたり、町民の皆さまに謹んで年始のごあいさつを申し上げます。さて、昨年においては、本町にとって大変喜ばしい出来事が数多くございました。

まず、町の東西をつなぐ新たな架け橋として、本町にとって長年の悲願であった新荒砥橋「白鷹大橋」が12月6日に開通いたしました。旧荒砥橋は、昭和32年の架橋から60年以上が経過した老朽橋であり、大型車同士のすれ違いや冬季間における交通に支障をきたしていたことから、これまで町を挙げて架け替えの運動に取り組み、ようやく実現したものです。開通式には、たくさんの方の皆さまに足を運んでいただき、渡り初めにも参加していただきました。そして、「大変素晴らしい橋が完成して良かった」というお声を数多くいただきました。今後は、「白鷹大橋」の完成を受け、経済、交通、物流などの拡大に向けてより一体感のあるまちづくりを進めていく所存でございます。

また、「白鷹町まちづくり複合施設」が、令和2年度の木材利用優良施設コンクールにおいて内閣総理大臣賞を受賞いたしました。

あけましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年本町では、長年の悲願でありました「白鷹大橋」が見事に完成し、盛大に開通式典が催されました。建設促進期成同盟会を中心に町を挙げての活動の成果であり、第6次総合計画で掲げる「コンパクト・プラス・ネットワーク」の推進に大きな起爆剤となるものと期待しております。

一方、全世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の影響により、東京五輪・パラリンピックをはじめ、国、県および町の行事や地域のお祭りなどが中止や延期、縮小となり、社会、経済、文化等の発展に大きな影響を与えてきました。ワクチンの開発等一日も早い終息を願うものです。

また、令和2年7月豪雨災害では、家屋の浸水や多くの道路、河川、農業施設が被災し、各地区コミュニティセンターに避難所が開設されました。早期の復旧を図るとともに、地域における防災意識の高揚をさらに図ることが求めら

伐採から製材、乾燥、施工までのすべての工程に町内企業が携わり、地域内で森林資源を持続的に循環させる「緑の循環システム」を構築し、町産木材を積極的活用してきた取り組みが全国的に評価され、最優秀賞の受賞に至ったものです。今後も「緑の循環システム」の構築を進めながら、本町の林業・木材産業の更なる振興を図ってまいります。

さて、本年につきましては、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すとともに、令和2年7月豪雨災害対策に全力で取り組んでまいります。さらに、白鷹町第6次総合計画のもと、特に子育て支援や教育の充実に力を入れながら、最大の課題である人口減少対策に向け、子育て支援住宅の整備や荒砥高校の存続に向けた取り組みを行ってまいります。

また、コミュニティセンターの整備や高齢者の生活支援、国道287号、西廻り幹線道路の整備ならびに国道348号の再整備に向けた取り組みなどを着実に進めて参りたいと考えております。

結びに、本年が皆さまにとりまして健やかで幸多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

れます。

このような中、議会といたしましても議会の総意として、「新型コロナウイルス感染症対策」および「災害対策」の2項目について政策提言を町長に提出しました。新型コロナウイルスなどなかなか先が見通せない状況にあります。が、一歩一歩着実に前に進み元の生活に戻れるよう期待するとともに、コロナ後を見据えた新しい生活様式についても本町の地域資源や特色を生かした活力と潤いのあるものにしていくことが重要と考えます。

人口減少、少子高齢、コロナ禍等の激激な社会経済情勢の変化に対し、町議会は柔軟かつ的確な対応をしながら、地方自治体の意思を決定する機関として、また、執行機関を監視する機関として、政策形成や多様な住民の意見の集約・反映をしっかりと行い、町民の皆様の負託に応える議会運営を目指してまいります。

結びに、新しい年が活力にあふれ、町民の皆さまが笑顔で暮らせる素晴らしい年になりますよう心よりご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

「激動の情勢を乗り越え、町の未来のために」

白鷹町議会議員 **今野 正明**

「新橋の誕生。さらに一体感のあるまちづくりを目指して」

白鷹町長 **佐藤 誠七**

